

基調講演

早稲田からWASEDAへ 第2の建学・世界貢献への道筋 -

早稲田大学国際部長
大野 高裕



2007年12月15日

大学創設1882年(創設者:大隈重信)

- ◆ 2007年10月21日125周年記念式典
 - ◆ 世界学長会議
Conference for University Leaders
 - ・Keynote (パリ政治学院、シンガポール国立大学、東京大学)
 - ・Undergraduate Education
 - ・Graduate Education and Promoting the Development of New Scholars
 - ・Strategic University Management and Globalization
- 93大学学長が参加(海外65校、国内28校)
教育・研究のグローバル化・連携の必要性を強調

早稲田大学教旨

- ◆ 学問の独立
「学問の独立」は、「在野精神」「反骨の精神」と結び合います。早稲田大学は、自主独立の精神を持つ近代的国民の養成を理想として、権力や時勢に左右されない、科学的な教育・研究を行ってきました。
- ◆ 学問の活用
もちろん、近代国家をめざす日本にとって、学問は現実に活かしうるものであること、日本の近代化に貢献するものであることが求められました。つまり「学問の活用」です。安易な実用主義ではなく「進取の精神」として、早稲田大学の大きな柱の一つになりました。
- ◆ 模範国民の造就
庶民の教育を主眼として創設された早稲田大学。その3つめの建学の理念が「模範国民の造就」です。グローバル化が進展する現代、豊かな人間性を持った「世界市民の育成」と言い換えることができるでしょう。建学の理念とそこから生まれ受け継がれてきた早稲田スピリットは、私たちの財産。早稲田人がひとしく身につける校風です。

早稲田大学校歌-2番-

二番 東西古今の 文化のうしほ
一つに渦巻く 大島国の
大なる使命を 担ひて立てる
われらが行手は 窮り知らず
やがても久遠の 理想の影は
あまねく天下に 輝き布かん
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

早稲田大学概要

◆ 教学組織

- 学部：11
- 大学院：17
- 附属高校：2
- 系属高校：3
- 芸術学校：2

◆ 国内で2番目に大きい大学

- 学生数：54,000
- キャンパス数：8
- 専任教員数：1,800、非常勤教員数：3,000
- 職員：750名

◆ 強力な校友ネットワーク

- 世界中で490,000名もの校友が活躍
- ソニーやカシオといった世界有数の企業の創業者を輩出
- ホンダ、任天堂、サムスン電子などの世界一流の企業のCEO等を輩出



学部

- ◆ 政治経済学部
- ◆ 法学部
- ◆ 第一文学部
- ◆ 第二文学部
- ◆ 文化構想学部 (2007)
- ◆ 文学部 (2007)
- ◆ 教育学部
- ◆ 商学部
- ◆ 理工学部
- ◆ 基幹理工学部 (2007)
- ◆ 創造理工学部 (2007)
- ◆ 先進理工学部 (2007)
- ◆ 社会科学部
- ◆ 人間科学部
- ◆ スポーツ科学部
- ◆ 国際教養学部

国際教養学部 (2004年開設)

◆ 教養教育の重視

- ・ 幅広い分野の科目群
- ・ 現代的な課題についての先端的な学問に触れ、学際的な問題として考える機会の提供

◆ 地球規模の「志」を育成

- ・ 留学生が入学者の30-40%を占める
- ・ 英語と日本語を教育における共通言語とする
- ・ 日本・アジア研究をはじめとする3つの地域研究を設定

◆ 1年間の海外教育

◆ 世界のWASEDAへ

- ・ ソクラテスメソッド (発問式・対話式授業) を用いた少人数教育を実施

大学院

- ◆ 政治学研究科
- ◆ 経済学研究科
- ◆ 法学研究科
- ◆ 文学研究科
- ◆ 商学研究科
- ◆ 理工学研究科
- ◆ 基幹理工学研究科 (2007年)
- ◆ 創造理工学研究科 (2007年)
- ◆ 先進理工学研究科 (2007年)
- ◆ 教育学研究科
- ◆ 人間科学研究科
- ◆ 社会科学研究科
- ◆ アジア太平洋研究科 (GSAPS)
- ◆ 国際情報通信研究科 (GITS)
- ◆ 日本語教育研究科
- ◆ 情報生産システム研究科 (IPS)
- ◆ 環境エネルギー研究科 (2007年)

専門職大学院

- ◆ 早稲田大学ビジネススクール (WBS)
- ◆ 公共経営研究科
- ◆ 法務研究科
- ◆ ファイナンス研究科
- ◆ 会計研究科
- ◆ 環境エネルギー研究科 (2007年)

教育の国際化系譜

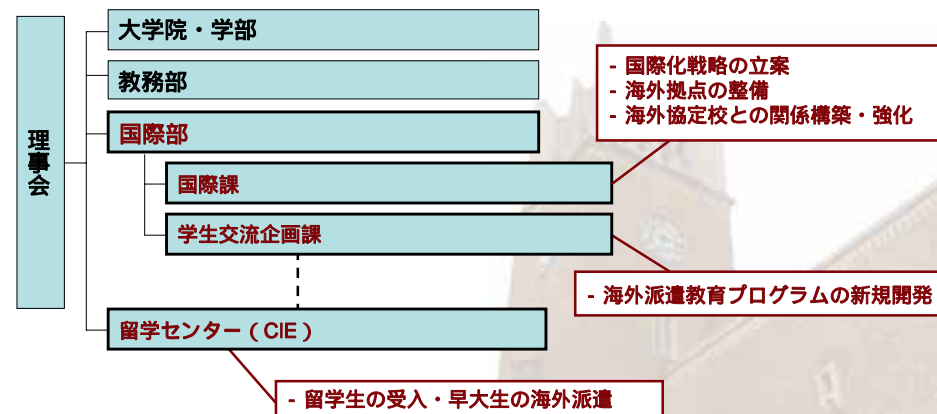
- ◆ 1905年～: 清国留学生団受入れ
- ◆ 1920年代: 留学生が全学生の25% (2,500/10,000) を占める
- ◆ 1963年～: 別科国際部設立
(アメリカから100名規模1年間留学生受入れ)
- ◆ 1990年代: 海外協定の大量締結 (現在500件超)
- ◆ 1998年～: 英語による教育を行う大学院新設
(GSAPS・GITS・IPS・WBS)
- ◆ 2004年: 国際教養学部新設 (英語カリキュラム・留学(1年)義務化)
- ◆ 2005年～: 海外大学とのダブルディグリープログラム
(学部/大学院、日本語/英語)
- ◆ 2007年現在: 留学受入2700名 (正規生2000名)、
留学派遣1500名 (1年プログラム900名)

国際化推進の組織体制

- 1960年代～ 教務部外事課
- 1980年代～ 国際交流センター (学術交流課・学生交流課)、
海外プロジェクト推進事務局、
教務部国際交流課・国際教育センター等を経て、
- 1990年代～
- 2003年8月 国際部設置
(国際化推進関連業務を総合的・一元的に遂行)
- 2005年1月 留学センター設置
(受入・派遣プログラムの実施)
- 2005年1月 国際部学生交流企画課設置
(受入・派遣プログラムの企画)
- 2006年7月 国際コミュニティセンター設置
(国際交流、文化交流の促進)

国際化推進体制

2005年1月～



2007年8月現在

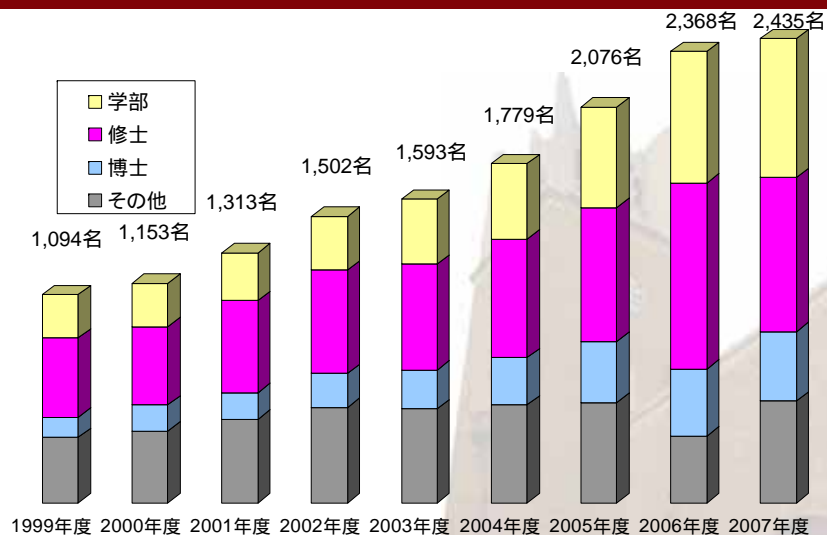
海外大学・機関との協定

協定の種類	協定数	大学・機関数	国数
大学間協定	311	382	74
その他の協定	162	163	26
合計	473	539	75

2007年6月現在

早稲田大学における留学生概況(出身国・地域)

地域	国数	学生数	%
アジア	22	1,984	81.5%
ヨーロッパ	36	203	8.3%
北米	2	156	6.4%
中南米	11	36	1.5%
オセアニア	4	33	1.4%
中東・アフリカ	14	23	0.9%
合計	89	2,435	100%

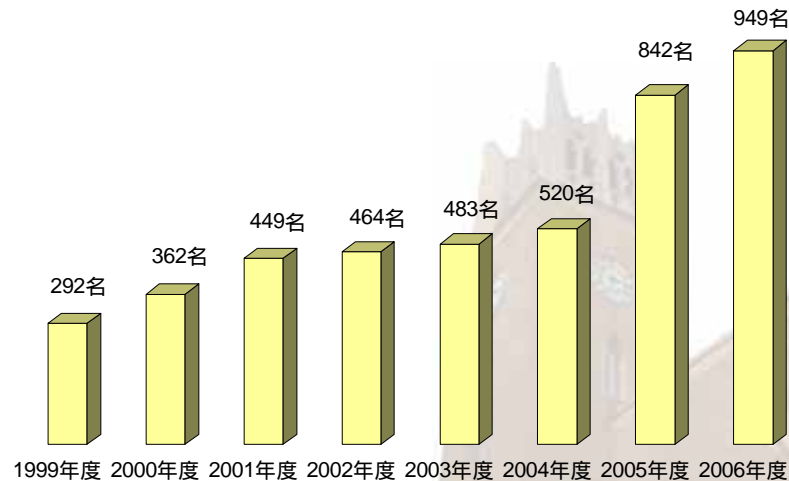


2006年10月現在

海外に留学している早稲田大学生(派遣国・地域)

地域	国数	学生数	%
北米	2	472	49.7%
ヨーロッパ	22	297	31.3%
アジア	8	108	11.4%
オセアニア	4	62	6.6%
中南米	5	5	0.5%
中東・アフリカ	3	5	0.5%
合計	44	949	100%

留学派遣の推移



短期派遣プログラム

	2004実績	2005実績	2006実績	2007実績
春季コース	0	74	42	111
夏季コース	129	164	151	208
合計	129	238	193	319

世界の情勢

◆ **世界的競争状態**

世界大学ランキング 1位ハーバード 2位ケンブリッジ 3位オックスフォード 10位MIT
 17位東大 25位京大 162位慶大 180位早稲田
 18位香港大 33位シンガポール国立大 36位北京大

評価項目: Peer Review, Recruiter Review, Faculty Student, Citations/Faculty, Int'l Faculty, Int'l Students

◆ **人的国際化が名門を支える**

留学生比率: ハーバード18% ケンブリッジ17% オックスフォード27% MIT26%
 スタッフォード21% カリフォルニア工科大26% UCB8%
 東大8% 京大5% 慶大3% 早稲田5%

ケンブリッジ大: 学部留学生1/6 大学院留学生1/2 教職員外国人1/4

世界の情勢

◆ **大学版「スターアライアンス」の模索**

自前・孤立、2大学間協定 コアコンピタンス・アウトソーシング、数大学間排他的アライアンス
 名門欧米大学を中心とした留学派遣(1 Semester × 2)義務・推奨
 早大国際部への海外からの来訪(連携目的)200件超 (10年で4倍以上)
 理工系・ビジネス系との研究・教育連携提案

◆ **外部競争的資金の国際連携化**

各国政府系の研究助成の応募資格
 個別研究者・グループ 国際的組織連携

◆少子化・学力低下

18歳人口:1990年200万人 2000年150万人 2010年120万人
 (大学・短大入学者75万人)
 (中国の大学統一試験受験者450万人(2001年))

◆有名進学高校から欧米大学進学の子

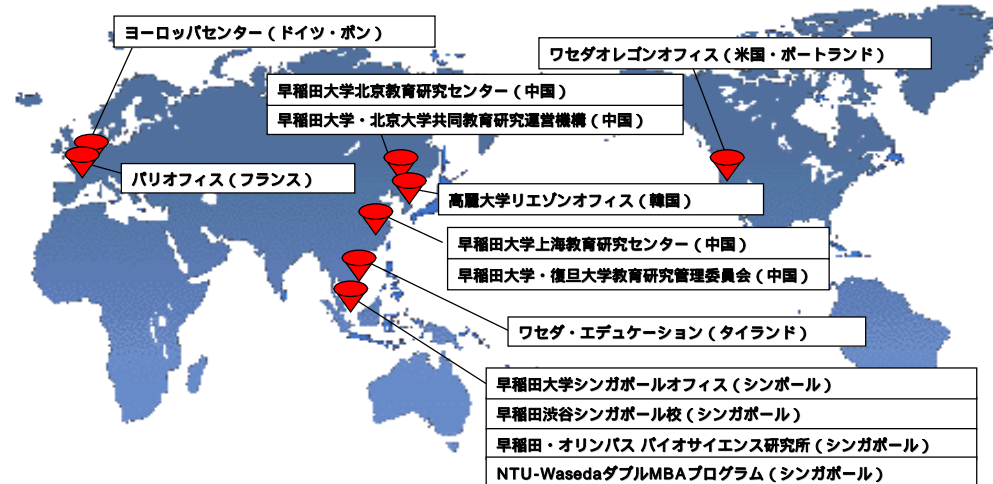
◆大学経営

護送船団方式 偏った自由競争 + 大学版「銀行再編」

◆人種/文化に関らず世界社会に貢献できる人材の育成

- ・高度な専門能力
アカデミック・実践
- ・グローバルなコミュニケーション能力
言語・論理・表現
- ・多様な価値観に対する受容能力
自己発見・他者理解
- ・サバイバル能力
危機管理・自己責任

- ◆優秀な留学生の確保
- ◆異文化体験の日常化
- ◆優秀な若手研究者の育成・確保
- ◆海外トップ大学との共同教育研究事業

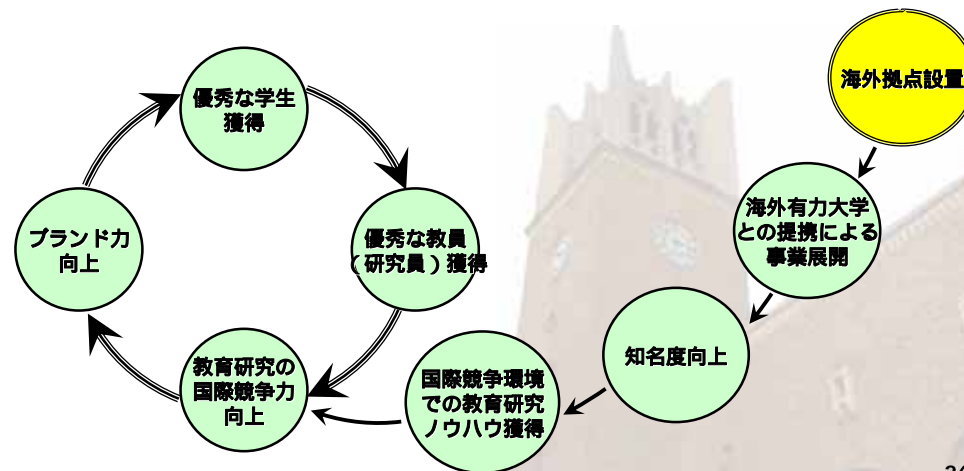


海外拠点での事業の4つの柱

1. 海外の優秀な学生を獲得するための教育プログラム開発・提供
 - ・留学期間の短縮化（留学前準備教育 / ツインプログラム / ダブルディグリー）
 - ・海外での学位（学部 / 大学院レベル）プログラムの設置
2. 国際競争の中で活躍する学生を育成するための教育プログラム開発・提供
 - ・長期・短期留学プログラムの開発
 - ・協定校とのダブルディグリー
3. 共同研究 / 国際企業等との産学連携推進・外部資金の獲得
 - ・特色ある研究の推進
 - ・産学連携の推進
4. 学生募集・広報活動
 - ・知名度 / ブランド向上のための情報発信
 - ・留学生の通年募集活動実施
 - ・留学生選考の一部を現地で実施

国際競争力向上のための基本戦略

海外拠点設置による事業展開を通じた国際競争力の向上



海外拠点(アメリカ・オレゴン)

Waseda Oregon Office

- ◆ 1999年設立
- ◆ 非営利公益法人として認可
- ◆ 北米における早稲田大学の総合窓口
 - 早稲田オレゴンプログラムの運営
 - 早稲田大学の広報活動拠点
 - 北米に留学する早大生の支援



海外拠点(ドイツ・ボン)

ヨーロッパセンター(ボン)

- ◆ ヨーロッパ地域に関する研究および学术交流の促進、ヨーロッパ地域への日本事情の紹介、国際教育プログラムの推進
- ◆ 事業内容
 - ヨーロッパ地域に関する研究およびその成果の発表の支援
 - ヨーロッパの大学との学术交流促進のための研究・教育プログラムの企画
 - 日本およびヨーロッパにおける学術研究・高等教育に関する資料収集・情報提供
 - 講演会、公開講座、シンポジウム、等の開催
 - 本学からの派遣留学生への支援



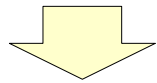
海外拠点(中国・北京)

- ◆ 「早稲田大学・北京大学共同教育研究運営機構」設立に関して、両大学にて合意（2003年12月）

目的

- 共同教育プログラムの開発・提供
- 産学連携による共同教育の推進（日系・中国系企業との協働）
- 中国・北京を舞台にした早稲田大学の国際的プレゼンスの向上

2008年4月には
上海にも同様の拠点を整備



中国を欧米大学との接点・
ゲートウェイとして活用



<http://www.pku-waseda.net/> 29

海外拠点(シンガポール)

系属校早稲田渋谷シンガポール校

- ◆ アジア唯一の在外教育施設（高等学校）
- ◆ アジア各国の在留邦人子弟を受け入れ
多様なバックグラウンドを持った学生の集まり
- ◆ 1学年100名が在籍
- ◆ 30余名の学生が早稲田大学に推薦入学



<http://www.waseda-shibuya.edu.sg/> 30

海外拠点(タイ・バンコク)

Waseda Education (Thailand)

- ◆ 2003年4月設立
- ◆ 早稲田大学と現地企業とのジョイントベンチャー
- ◆ 日本語教育を中心とした教育プログラムを開発・提供
- ◆ 早稲田大学のタイにおける教育研究および広報活動の拠点として機能を強化



<http://www.waseda.ac.th/> 31

早稲田大学の国際化戦略

- ◆ **優秀な留学生の確保**
 - 学部留学生数増（5年以内に4,000名）
 - ・ 中国、韓国の有力外国語学校へのアクセス
 - ・ 海外拠点を活用した学部説明会・入試支援
 - 大学院における国費留学生の積極的受け入れ
 - 「アジア特別奨学金」の活用
 - ・ 海外の特定大学からの推薦入学
 - ・ 入試での海外拠点の活用促進
 - 博士後期課程での優秀な若手研究者の確保・育成
 - ・ 文理融合・医工連携などの新領域を扱う学生の育成
 - ・ 海外政府等派遣学生の積極的な受け入れ
 - ・ 年間100名（計300名）程度の受け入れを検討

◆異文化体験の日常化

- ワセダキャンパスで毎日が異文化体験
- 海外派遣留学プログラムへの参加者4,000名の達成
- 学生全員が在学中に海外体験できるプログラムの拡充
 - ・ TSA/ISAプログラムなど多様な留学プログラム
 - ・ 夏季・春季の短期留学プログラム
 - ・ アジア地域への留学促進
 - ・ CCDL (Cross-Cultural Distance Learning) プログラムなどを活用
 - ・ テレビ会議システムなどのE-learningを活用した海外著名学者の講義受講

◆優秀な若手研究者の確保・育成

- 125周年記念若手外国人研究員招聘プログラム
 - ・ ハーバード大学、イェール大学、コロンビア大学、カリフォルニア大学バークレー校の4大学を中心とした米国のトップ大学から若手研究者を受け入れを促進
- 早稲田大学朝河貫一記念研究者招聘プログラム
 - ・ イェール大学から研究者を受け入れ、早稲田大学での講演会、セミナーなどを通して本学の若手研究者の指導にあたる

◆海外トップ大学との共同教育研究事業

- 共同教育事業
 - ・ ダブルディグリープログラム
 - ・ ETP-Jプログラム
 - ・ 相手大学との交渉の過程で早稲田のカリキュラムや制度をグローバルスタンダードに照らし合わせる機会を得る
- 共同研究事業
 - ・ 文理融合、医工連携、ロボティクス、生産システム、技術経営など「早稲田が強みを持つ分野」「ユニークな分野」での共同研究促進

- ◆ 北京大学との博士課程学生の共同育成 (2002年9月開始)
- ◆ 北京大学・復旦大学との学部レベルDDP (2005年9月開始)
- ◆ ナンヤン工科大学 (シンガポール) とのダブルMBAプログラム (2006年8月開始)
- ◆ 台湾国立大学との学部レベルDDP (2007年4月開始)
- ◆ シンガポール国立大学との学部レベルDDP (2007年8月開始)
- ◆ コロンビア大学大学院博士レベルDDP (2008年4月開始予定)
- ◆ 台湾国立大学大学院修士レベルDDP (2008年4月開始予定)

NTU-Waseda Double MBA Programme

- ◆ 早稲田大学とナンヤン工科大学との共同開発によるダブルディグリープログラム
- ◆ 技術経営学 (MOT) に関する全日制の1年プログラム
- ◆ 有力欧米大学が進出するシンガポールに日本の大学で初めて進出 (日本初の海外でのディグリープログラム)
- ◆ 2006年8月開講
- ◆ 入学者数:
2006年: 14名
2007年: 21名
- ◆ 21講義科目をシンガポールで提供し、2週間のField Study Mission (FSM) を日本 (東京・九州) で実施
- ◆ MBAコア科目 (8科目) をナンヤン工科大学の教員が主に担当
- ◆ MOT発展科目 (13科目) を早稲田大学の教員が主に担当
- ◆ 今後はインドの大学も巻き込んだプログラム展開を計画



<http://www.waseda.ntu.edu.sg/> 37

Executive Training Programme – Japan (ETP-J)

- ◆ 早稲田大学 (日)、パリ政治学院 (仏)、ポッコーニ大学 (伊)、ロンドン大学 (英) の4大学コンソーシアム
- ◆ European Commissionのヨーロッパ企業の幹部に対する研修プログラムを共同開発・提供を受託
- ◆ 2006年10月より開始。2007年3月より本学での教育開始

- 商学研究科を中心としたマネジメント教育
- 日本語教育研究センターの日本語教育
- 企業インターンシップ



<http://www.waseda.jp/intl-ac/etpj.html> 38

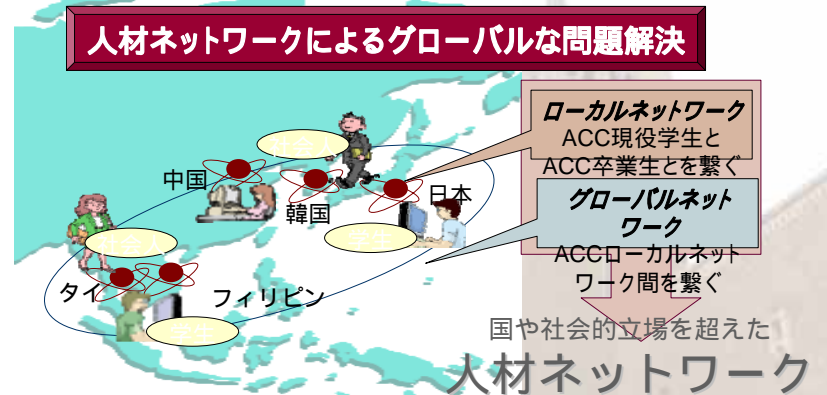
- ◆ **第1次DCC (1999 ~ 2001年度)**
 - ◆ ネットワーク型授業・海外大学との異文化交流授業 (CCDL)・チュートリアル外国語学習プログラムの実用化
 - ◆ 早稲田大学との共同事業会社2社の設立など
 - ◆ 大学と産業界が協力しながら、情報化をベースとする21世紀型の新しい大学モデルを実現するための基礎作り
- ◆ **第2次DCC (2002 ~ 2004年度)**
 - ◆ オンデマンド授業流通フォーラム (FOLC) 設立、NPO実務能力認定機構 (ACPA) 設立
 - ◆ 大学事務システムプロトタイプは無償配付、オープンソースソフトウェア研究所設立
 - ◆ サイバーユニバーシティコンソーシアム (CUC) の基礎作りなど
- ◆ **第3次DCC (2005 ~ 2007)**
 - ◆ 国際遠隔共同授業の実施、CCDLの標準化と拡大、日本語教育プログラムの拡充と海外展開
 - ◆ FOLC・ACPAの活動支援を通じたオンデマンド授業・実務教育プログラムの流通促進
 - ◆ 国内・海外の大学及び企業とのネットワーク拡充によるACCの基盤整備

アジア・サイバー・カレッジ (ACC)

- ◆ 早稲田大学と産業界が連携し社会貢献活動として推進している「21世紀型」の新しい教育システム
- ◆ グローバル・リテラシーと実務能力を備え、アジアを中心として世界的に活躍する「アジア人」を育成する
- ◆ これからの「アジア人」に求められる
3大テーマ = 「環境」「健康」「グローバル・リテラシー」
に関する最高品質の教育プログラムを、情報通信技術 (ICT) の活用による地理的、時間的制約を超えたさまざまな手法や機会を通じて、より多くの人々に提供する
- ◆ ACCで学んだ「アジア人」が、グローバルな問題をアジア的な視点で解決することにより、アジア及び世界が持続的に発展することを図る



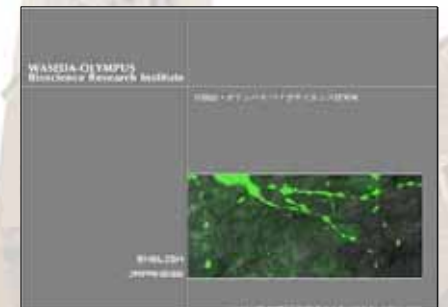
ACCによる人材ネットワーク



<p>ボン大学</p> <p>B - IT LIMES</p> <ol style="list-style-type: none"> 2005年5月 M.Winiger学長、ASMeW訪問 2006年7月21.22日 ASMeW研究者8名、ボン大学研究者11名による共同シンポジウム 2007年3月 ASMeW研究者3名が共同研究を目的にボン大学訪問+5月以降第3回共同シンポジウム開催予定 	<p>IRP 国際研究推進本部</p> <p>早稲田大学 ヨーロッパセンター</p> <p>コーディネート</p> <p>箇所間協定締結</p> <p>6つの共同研究がスタート</p>	<p>早稲田大学</p> <ol style="list-style-type: none"> 2006年2月 ASMeW研究者と国際研究推進本部(大学国際戦略本部強化事業)関係者ボン大学B-it訪問 2006年11月6.7日 ASMeW研究者12名、ボン大学研究者4名による第2回共同シンポジウム 2007年秋以降 第4回共同シンポジウム予定
---	--	--

早稲田・オリンパス バイオサイエンス研究所 (WOBRI)

- ◆ 2004年7月設立
- ◆ オリンパス(株)とのジョイントベンチャー
- ◆ Biopolisに400㎡の研究スペース
- ◆ 生活の質(QOL)向上につながる脳の高次機能に関する専門的な研究を実施
- ◆ 3つの研究プロジェクトを展開中
 - 1. 脳機能の原理を探究する
 - 2. 抑制のメカニズムを解明する
 - 3. 良質な睡眠を確保する
- ◆ 5年間のプロジェクト(2004年4月~)
- ◆ 次プロジェクトから理化学研究所も参加





VENICE ■ INTERNATIONAL UNIVERSITY

45

APAIE 2008 Conference & Exhibition

~ The Next Wave in Asia-Pacific Higher Education ~

Date: March 26-28, 2008

Venue: Waseda University, Tokyo, Japan



<http://www.apaie.org/>

Conference for international educators / administrators

Register online now!!

46

APRU Distance Learning & Internet Conference (DLI2008)

~ New Directions for Inter-institutional Collaboration: Assessment & Evaluation in Cyber Lectures ~

Date: November 19-21, 2008

Venue: Waseda University, Tokyo, Japan



47

◆国際化 - 「個人」のレベルと「組織」のレベル

個人のレベルの国際化

- ・学習(学生)、研究(研究者)、研修(職員)の個人的能力の開発
- ・双方向型 行きやすく、来やすい
- ・到達目標としての外国語能力

組織(学部・大学院・本部機構)としての国際化

- ・入学 (リクルーティング、入学試験、奨学金、寮)
- ・カリキュラム・専門科目・コンテンツ
(英語による入学時教育、上級学年における日本語・英語併用科目の設置)
- ・語学教育
- ・卒業 (進路、就職、生涯学習)
- ・機構 (組織構成員の多様性)

マルチリンガル・ユニバーシティー (多文化複数言語主義の大学へ)

48

◆グローバルな高等教育市場における競争と協力

(Global College と Waseda Alliance)

パッシブからアクティブへ

・学生募集、教育、研究、就職

国際的に競争力のある大学

・海外拠点、国際的リクルーティング・共同教育・研究

Waseda Alliance の形成、同種の大学との協働・連携・コンソーシアム形成

・段階的戦略(アジアから世界へ)

連携・協力における幾つかの手法

・ダブルデGREE、ジョイントデGREE

・グローバルカレッジ構想

・Eラーニングの活用

Thank you very much !